

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271500344		
法人名	株式会社 アミーゴ島根		
事業所名	グループホーム 雲南・ゆりさわ		
所在地	島根県雲南市三刀屋町伊萱40-6		
自己評価作成日	平成24年4月13日	評価結果市町村受理日	平成24年8月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=32
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成24年5月14日(月)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりと穏やかに、入居者のペースに合わせて、さりげない気配りをし、和気あいあいと笑顔の耐えない施設であり、入居者の残存能力の活用、そのらしさを尊重し、QOLの維持向上に努め、入居者様と一緒に喜び、一緒に楽しめるよう職員との関係性を大切にしています。
地域とのかかわりを大切にし、施設の周りの散歩を日課とし近隣の方との交流を大切にしています。ご家族様の関係性も重視し、気軽に着いただけるようオープンな環境づくりをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

斐伊川に沿って走る道路に面した場所に、自然に囲まれた小規模多機能施設やデイサービス施設等と隣接した平屋の建物である。小規模な集落で周りに民家は少ないが、開所当時から地域の行事や奉仕活動等にも積極的に参加しており、すっかり地域になじんでいるように見受けられた。今後に於いても、今まで築き上げた関係を災害時等の支援体制等に繋げていくと共に、より地域に密着した施設として期待したい。開所から年数も経過している事もあり、重度化や終末期の対応、看取りケアの必要性にも繋がっていくことから、かかりつけ医との良い関係を基盤に、利用者や家族の安心を得られるような取り組みにも、大いに期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、日々、理念を確認しながら支援できるよう取り組んでいます。	社長、職員共に作成した事業所独自の理念を掲げ、事業所内の目につきやすい所に掲示している。毎日の朝礼時に取り上げたり、理念を全員で唱和したり、意識して業務にあたるように心がけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	晴れた日の日課として、施設の周辺の散歩を実施している、その際、挨拶をしたりして気軽に交流を楽しんでいる。また、自治会の夏祭りや公民館の文化祭の参加、昨年は地域住民の見学会を実施しました。	事業所の回りは民家も少なく、世帯数も少ない集落だが、自治会に入会し地域の祭りや、草刈り溝掃除などの奉仕活動にも参加したりと、地域と事業所との良い関係作りに積極的である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域よりボランティアに来てくださる方々を通じて相談援助を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、サービスの実践、行事実態等について報告を行い意見交換をしている。その都度議題を設定して協議し、意見交換を行っている。	隣接している小規模多機能施設と合同開催し、事業所の現状報告を主に意見交換を行っている。会議への参加の呼びかけを行っているが、メンバーは決まってきたおり検討の必要性を感じている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報提供や相談事項など、常に連携を取れる体制を心がけている。	小規模多機能施設、グループホーム合同の部会や研修会に定期的に参加し、行政の担当者とも良い関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待のマニュアル、研修を行っています。朝礼、ミーティング、カンファレンスのとき事実がなかったことを確認している。	マニュアルを作成したり、研修を行ったりして、ことばだけに終わらないように、意識することで馴れ合いに注意しながら、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関するマニュアルに基づいてカンファレンス時に職員間で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状で必要としている入居者様は、おられません。今後の為にも勉強会は必要と考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前説明の上に、重要事項等でも分かりやすい説明を行い、理解していただけるよう心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも気軽に、話して頂ける体制づくりに心がけている。家族の面会も多く連絡を密にするよう心がけている。また、家族様の要望には出来る限り実施できるよう心がけている。	毎月の請求を行う際、写真を同封したり、現状報告をし、いつでも意見を出してもらえるよう呼びかけている。意見箱を設置し、面会時にも声がけを意識している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティングを行い意見を出せるようにしている。	毎日の朝礼時、ミーティングの時などにできるだけ意見がでるようにしている。若く経験の浅い職員もいるが、全員で話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員会議への参加や、自ら現場へ入るなどして情報収集に勤めると共に、環境整備の取り組み、介護職員処遇改善等に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとり目標を立ててもらい研修計画を立て、その人に必要である勉強会や研修への参加研修会等の報告を職員に共有できるようミーティングを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム・小規模多機能部会での取り組みに参加することで違う目線でのサービス向上に取り組んだり、相互間での意見交換が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの聞き取りを行い、情報を収集し、ご本人様の置かれている現状を把握し、思いに寄り添いリロケーションダメージの軽減に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いをしっかり受け止め困っている事、不安なことを真摯に受け止め、より良い関係の構築に勤めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在入居されている利用者様の様子や雰囲気、そして施設の環境情報などを理解していただき、本人様とご家族の方に安心、安全な支援を提供できるよう心がけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生活の場」であることを意識し、入居者様を「生活の主体者」として、共に生活する中で残存能力を生かし、笑顔の絶えない関係作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連携をとり、一緒に本人様を支えている。本人様の誕生日には、ご家族様を招待したり、外食、お茶会を一緒に過ごしていただけるよう計画を立て、実行している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や馴染みの方がいつでも来所できる環境を整えゆっくり過ごしていただけるようまた、主治医の定期往診、馴染みの理容院へいったりと、ご本人の支援を行っている。	回数的には多くはないが、来所時にはできるだけくつろいでもらえるように、心がけている。外出の帰りに自宅付近を訪問したり、デイサービス利用者に面会を呼びかけたり、なじみの関係が途切れないように配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ここのプライバシーを尊重し、共同生活が維持出来るよう、職員が維持出来るよう、職員が間に入り、入所者様同志がよりよい関係作りが出来るよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	随時、対応出来るよう連絡先をもち、いつでも相談体制にあることを説明している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中で、思い、希望、意向を受け入れる体制、雰囲気作りを行い、入居者様の表情、言葉、態度からその人の思い把握できるよう努めている。また、本人様主体で、していただけることはしていただけるよう支援を行っている。	ここでの生活を満喫してほしいという思いから、できるだけ自由に過ごしてもらい、その中から思いを感じ取るようにしている。聞き取りでアセスメントを作成するが、重度化に伴い思いの把握には難しさを感じている。	日々の変化に目を向け、できるだけ細かく記録することで、より本人の思いが感じられるようアセスメントの充実に務め、計画に反映できるよう検討していきたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミーティング、個々のカンファレンスを行い職員間の情報を共有し、介護計画に反映させるよう勤めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様、一人ひとりの状況を申し送り、朝礼、職員間の連携を密にして、介護計画に反映させるよう勤めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者主体の生活をしていただけるよう、本人様、家族の方、関係者と話し合い、情報を共有し現状に即した介護計画の作成に努めている。	定期的に見直しを行い現状に即した計画になるようにしている。体調の変化にともない変更が必要な場合には、その都度話し合いの機会を設け対応している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個別の記録について、職員間の情報を共有し、介護計画に反映させるよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、その時々々のニーズに柔軟に対応している(医療面、ご本人、家族様からの申し出、要望等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向や必要性に応じ、民生委員やボランティア、自治会、消防、文化などと協力しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人と相談しながら、連携のとれる主治医の協力が得られる体制作りをしている。24時間対応して頂けるよう、協力してもらっている。	緊急時にも対応可能なかかりつけ医があり、安心な医療体制ができている。他の科の受診が必要なときも職員が付き添い対応することで、本人、家族の安心に繋がっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との話し合いや協議、また医療機関との連携を図り、情報を共有し、健康な生活が維持出来るよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	健康状態に留意し病気の早期発見の努め、入院された場合の情報提供や早期退院が出来るよう病院関係者とも情報交換をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には、家族もチームケアの一員であることを全員が理解し、早い段階から主治医や、ご家族様と話し合いを行い事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し協力いと共に連携して支援に取り組んでいる。	事業所の方針を理解していただけるように、できるだけ話し合いの機会を持つようになっている。看取りを行ったケースはないが、必要性は感じており研修等を行い対応し、今後の検討課題としている。	重度化に伴い終末期に向けた取り組みや、看取りケアの必要性が今後高くなることが予想されるため、研修内容を検討することで対応していただきたい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	入居者の急変や事故発生に備え、すべての職員はマニュアルを基本として、実地研修を繰り返して行い、実践力を身につけている。また、消防署と連携して、心肺蘇生法等の訓練をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消化・避難訓練は、春と秋の年2回、消防署と連携の下、行っている。ハザードマップを活用し避難場所の確認している。地域の方との連携が構築できるよう参加を促している。	消防署の協力のもと年2回の訓練を実施したり、地域の会議でも、防災時の協力体制作りを依頼している。事業所内でも定期的にビデオを見たり消火器等の訓練を取り入れたり体制作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を最大限尊重し、プライバシーを守る意味を理解し、トイレ誘導や日々のケアの中で声掛けや対応が出来るよう心がけている。	プライバシー確保の研修を実施したり、ミーティングなどでも取り上げ再確認できるようにしている。さりげない声かけで危険がないように見守るようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の援助の中で、ご本人様の思いをしっかり受け止め、出来ることはして頂き、したいことに対する支援を職員のさりげない思いや心遣いを持って援助できるよう心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体者は、入居者様であり、その人のペースに合わせた支援が出来るよう、そして本人様の思い、希望に沿った支援を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は、ハッピー号を利用して、ご本人様の思いに沿った支援(髪染め、パーマなど)、また、行きつけの店のある方は、希望に応ずる体制にある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の口腔ケア体操をし、楽しく食事を食べていただけるようしている。一緒に食事をする事で、食事時の会話が楽しくいただけるよう心がけている。	調理、食事等の中でできることを見つけ手伝ってもらっている。重度化してきており、限られているが食を楽しんでもらうために、月に1回は外食の機会をもうけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量栄養のバランス、お一人お一人の状態を把握し習慣に応じた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を十分認識しており、毎食後、その人の能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の様子を見ながら、個々に応じた排泄誘導を行い、声掛けを行っている。排泄のパターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	重度化しおむつ使用者も多いが、個々に合った排泄パターンを把握し、定期的に変換したり、声掛けて誘導したりと不快感を与えないように配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の状態を把握し、かかりつけ医、看護師との情報を共有し個々に応じた予防を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望や状況に応じた時間帯に入浴できるようにしている。	2日に1回は入浴できるようにしており、できない時には清拭を行っている。意思確認を行い対応。重度な方には、2人体制で入浴介助にあたっているが、車いすのまま入浴できる浴槽の使用も可能である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の自由を尊重し、気持ちよく休息したり、睡眠をとっていただいている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬一覧ファイルがあり、職員はいつでも確認できる。9名様の薬の服用があり誤薬が無いよう確認をして服用していただいている。また、症状の変化について看護師、かかりつけ医との連絡を密にして対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	具体的な役目を持って出来ることをして頂き、ここに「居場所」があることを理解し、その人の力を活かした支援を心がけている。そして、一緒に喜び一緒に楽しむことが出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課として散歩を実施している。レク担当を決め、希望に応じて野外活動を計画し手いる。ご家族様との外出も積極的に行っていただいている。	できるだけ多く外に出ることにしており、散歩は日課となっている。その他天候や個々の体調を考慮して、外出ができるように計画している。以前からの理容院へ出かけたり、家族との外出も勧めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の金庫で、お小遣いの管理はしているが、ご本人の希望に応じて自由に使用できるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙など希望に応じて利用していたいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光は無く、季節の花を飾ったり、季節感のある貼り絵や壁紙を張り、落ち着いた雰囲気演出できるように心がけている。居心地の良い環境を維持出来るよう、職員同士気配りを行っている。	日中多くの時間を過ごされるデイルームは明かり取りの窓があり、庭の緑も感じられ、くつろげる空間になっている。テーブルも丸く家庭的で落ち着いた雰囲気に感じられる。壁にはその季節に合ったいろいろな作品が飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でくつろいだり、ソファで気の合ったもの同士が過ごせたり、和室で過ごしたり、自由に過ごせる工夫をしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段着でいられる生活を支援し、本人様の生活スタイルに合わせて必要なものを持ち込んで、好きな空間が演出できるように工夫している。	入所前の生活に考慮し、畳の部屋も2つ用意されている。馴染みの物の持ち込みを勧め、動きやすい空間づくりに配慮している。どの部屋からも、外の景色、季節の草木が楽しめる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全を考慮し、残存機能を活かせるよう補助具を取り付け、自立した生活が送れるよう支援している。		